

大阪砲兵工廠荷揚げ門

堀の向こうにある門は、かつて大阪城東側の広大な軍需工場であった大阪砲兵工廠の搬入口であった。1870年から第二次世界大戦終結までの間、工廠は軍のために大砲を始め大量の兵器や機材を製造していた。材料などの物資は、近くの港から川や堀を経由して直接搬入することが可能であった。

江戸時代（1603-1867）の比較的平和な時代でも、大阪城のこちら側の地区では武器の製造と保管が行われていた。1868年1月、明治維新で徳川慶喜が大阪城を放棄して逃げ出した際の混乱時に、火薬精製所が爆発した。この大規模な爆発は、大阪城の大部分を破壊した火災によって引き起こされたものと思われる。